

## 雪の中の落としもの

先日、ビジターセンター前の公共駐車場で「指輪を雪の中に落としてしまった」というお客様が相談に来られました。

そのお客様はご結婚1年目の若いご夫婦で、指輪も購入してから1年。前日にたまたま別の場所でお会いしてお話していた事もあり、雪の中必死に探されてる様子を見て、指輪捜索のお手伝いをする事にしました。公共駐車場は夏であれば90台以上の車を停められるほどの敷地面積があります。

指輪を大体このあたりで落とした、という証言をもとに、付近の雪をシャベルで掘ったり、熊手でかきわけたり、ビジターからお湯を運んで溶かしたり、とご夫婦と私の3人で探します。…が、掘って掻きわけて溶かしても一向に見つからずあきらめ半分になっていた頃、旭岳の自然保護監視員の皆さんが通りかかり、「どうしたの？」と声をかけてくれました。

事情を説明すると、仕事もある中「少しの時間なら手伝う」と申し出てくれ、合計6名で指輪の捜索活動にあたったところ、ものの1分程度で「あった！」の声。ベテラン監視員の1人が拍子抜けする程あっさり見つけてくれて、さすがの監視員の観察眼！と感動した出来事でした。（ご夫婦も本当に喜ばれていました）

それと同時に、これが雪のない私の地元・関西だ



Nature Column (ネーチャーコラム)  
自然ガイドなどで活躍する人たちをリレーしています。

ったら手伝っていたかな？と考え、地元なら手伝ってなかった気がしました。

雪深い北海道の中でも、さらに豪雪地帯の旭岳。助け合う気持ちが働くのは、生活するにも過酷な環境だからという気がします。

スノーボードと雪が好きで北海道に憧れてこの場所に住み始め、最初の頃は雪下ろしをするのも、除雪車を見るのも、痛いほどの寒さも、すべて楽しくて感動の連続でしたが、今では日常生活の上では「雪がないのが一番だ」と思うようになり、私も道



民らしく成長してきたと嬉しく実感するこの頃です。（もちろん、大雪山の伏流水で生活していることへの感謝は忘れません）

▲11月初旬、極寒の姿見園地。高山植物に“エビのシッポ”が生えています。これは、氷点下で風に吹かれた霧状の水分が、木の枝に氷となって付着し、そこに次々と霧氷がくっついて成長したものの。エビの尻尾そっくりです。

旭岳ビジターセンター 土井啓子



## 世界で最初に装飾されたクリスマスツリー

東川町国際交流員 (CIR)

アルタ・ポイツエホブスカ

12月はラトビア人が最も好きな季節かもしれません。12月24日から26日はラトビアの国民の祝日です。モミの木が家に持ち込まれ、装飾され、家族がクリスマスを祝うために集まります。ラトビアではこの時期、プレゼント交換だけでなく、一緒に料理を作り「家族や親しい友人と一緒に過ごした時間」に感謝することも大切にされています。



▲クリスマスツリー発祥の地

このお祝いは、家族に小さな子どもがいるとさらに楽しくなります。クリスマス夜の夜が近づくと、クリスマスツリーの下にプレゼントを隠します。子どもたちが気付くまで待つか、誰かがプレゼントを玄関の後ろに置き、ドアベルを鳴らして隠れる。子どもがドアを開けると、サンタさんが彼らにプレゼントを残したことになるのです！子どもたちには、プレゼントを渡される時、必ずクリスマスにまつわる短い詩や物語を暗唱する決まりがあります。そのため、クリスマス前の時期

は誰もが、いくつかの詩や短いクリスマス物語を学びます。

国によってクリスマスは異なるかもしれませんが、この時期に世界中の人々を結びつけるものがあります。それは、クリスマスツリーです。

この伝統はどこから始まったのでしょうか？実は、世界で初めて装飾されたクリスマスツリーが1510年にラトビアの首都リガで発見されました。この事実は、国立クリスマスツリー協会によって公式に認定されています。

その場所には日本語を含むいくつかの言語で「リガに初めてクリスマスツリーが登場したのは1510年」と書かれたプレートが設置されています。

「最初のクリスマスツリー」は紙の花で飾られ、リガの中央市場で発見されました。現在、この市場は冬の間、さまざまな種類のラトビアの商品や伝統的な食べ物を購入できる素敵なクリスマスマーケットになりました。ラトビアの天気は東川町の天気と非常に似ているので、編んだミトン、靴下、暖かいラトビアバルサム(お酒)は、冬の季節に暖かさを感じられるものとして、特に人気があります。機会があれば、この素敵な季節にラトビアを訪れ、最初のクリスマスツリーが見つかった場所をご覧くださいね！